

10/27朝日

## 旧統一教会側との「政策協定」

# 大串消費者担当副大臣も

世界平和統一家庭連合（旧統一教会）の友好団体が国政選挙で自民党の国会議員に事実上の「政策協定」を求めていた問題で、

韓トンネルの推進」などの項目があり、昨年10月3日に署名したという。岸田政権の政務3役が「協定」を結んでいたと認めたのは初

めで、▼27面=疑いの目

26日の衆院厚生労働委員会の答弁で明らかにした。

大串氏によると、取り交わかにした。憲法改正や「日

したのは推薦確認書。昨年

の衆院解散前に、友好団体の支援者から、推薦状の交付の条件として署名するよう求められたという。

憲法改正に取り組むなどを「創立と自民党に近いような内容であったと記憶している」と答弁。ただ田嶋によると、「はい」と回答。教団側は、憲法改定などの対策全般を話し合う有識者検討会

が開かれるなどしてきた。

朝日新聞社が全国議員公表された1255人の中に連団体との関係を尋ねるアンケートで、大串氏は「教団関係者から献金を受けた

衆院兵庫6区で落選し、比例近畿ブロックで復活当選。内閣府で消費者担当副大臣を務める。消費者行政の閣僚等が自分でありと調査をして関係を明していく」と述べた。

国会議員の8項目の点検調査では、追加報告を含め、大串氏の名前はなかった。松野博一官房長官は26日午前の会見で「報告は受けていながら、旧統一教会との関係については、それぞれの閣僚等が自分でしっかりと調査をして関係を明していく」と述べた。

# 消費者行政疑いの目

## 大串大臣、教団側にメッセージも

高額献金など)の被寄附や政治を図る法整備を目指す動きが加速する中、「世界平和統一家庭連合」(旧統一教会)と国民会議員の接点がまた明らかになった。友好団体と事実上の「政策協定」を結んでいたと認めた大串正樹氏は、法整備に向けた準備を進める消費者庁を担当する副大臣だ。行政の中立性に疑問符がついた事態に、厳しい視線が注がれている。

大串氏はなぜ「協定」を結んだのか。その経緯も26日の衆院厚生労働委員会で明らかになった。

大串氏によると、推薦権選挙協力を受けたことは否定。「ほとんど応援があったというわけでもありますし、せんし、特に集会をやるような選挙もせず、助員をかけるようなこともありませんでした」と明かした。

これまで明らかにならなかったことについて

「(事実上の「政策協定」にあたる推薦権選挙審査)なかなか見つからず、昨日見つかった」

26日の衆院厚生労働委員会から

デジタル兼内閣府(消費者など担当)副大臣、56歳。2021年に衆院兵庫6区で落選し、比例近畿ブロックで復活当選。谷垣グループ

旧統一教会側との「政策協定」をめぐる大串正樹氏(自民)の説明

者が友好団体の関係者だったといふ。その際、支援者はこう切り出したといふ。「推薦書を交付します。つきましては」れどサインをしてほし

い。突然のことだったが、用紙をその場で見て署名した」と説明した。この団体関係者との付き合いは、「(この)2、3年ぐらいだと想つ」と述べた。

また、「最初は統一教会と直接結びつかなかつた」とも説明。ただ「後々、そういう関係なんだなどわかつた」とも述べた。

教団側との関係について

は、一度だけメッセージを

送ったと説明。野党議員から「広告塔になつた」と追及されるが、「国会議員がメソージを送つた」とを認められた方が安心されたといふのであれば大変申し訳ない」と明記した。

## 「政策協定」苦戦の衆院選前

「旧統一教会を巡る被寄附者政治の法整備の議論が進んでいますので、いずれ国会でも答弁の機会が増えると思います」

10月22日付の公式ブログでこう意気込みを記している大串氏は昨年10月の衆院選兵庫6区(伊丹市、宝塚市など)で、日本維新の会の候補となり(つともえの激戦となり、約2千票差で競り負け比例で復活当選した)選挙では岸田文雄首相が応援に入ること、自民本部も力を入れ、大串氏

と危機感を感じさせていた。確認書への署名は公示の約2週間前、兵庫県の自民党関係者は「6区は大阪に近く、維新との戦いが予想されていた。支持者を一人でも増やしたい気持ちがあつたんだ」と語る。大串氏は教団側からの選挙協力は否定しているが、地元の農業の男性(76)は「驚いた」、残念」と語った。

関東地方の60代女性は「消費者庁に相談しても、がポイントだ。すでに党所

明は各議員に委ねる考え方を示していく。政権田松の対応とは異なり、内からも民間の声が上がり、若手議員は「個々に公表を任せていたら、対応が遅くなる」と懸念。閣僚経験者は「(この際、岸田首相が主導して全部調べた方が良

い)」と語る。

大串氏のニュースは、立法に向けた準備が進む消費者行政疑いの目を駆け巡った。大串氏は消費者行政金般について、河野太郎消費者相を支える役回りを担ったのが大臣のスタンス。大串氏も当然同じだった。

資料の配布のみの場合もあったという。「委員の先生方と国会に議論をしていたときたいと始まったのが、靈感商法対策などを話し合う有識者会を開いてほじり」と依頼され、出向いた。(J)の支援▼一面参照